

# かんきつへの銅剤とマンゼブ剤の混用散布の検討

黒点病とかいよう病は定期的に防除が必要な病害であるが、散布回数が多く、労力的な負担が大きい。近年、混用散布が可能とされる銅剤が防除暦に採用されていることから、省力化を目的に銅剤とマンゼブ剤の混用散布による両病害への防除効果、薬害について検討した。

試験概要 供試品種：伊予柑 薬剤散布日：2020年5月28日、6月24日、7月31日、8月31日  
(銅剤にはアプロン400倍、アビオンE 1,000倍を加用)

## ○黒点病の防除効果



黒く盛り上がった病斑周辺部に白色コルク層

## ○かいよう病の防除効果

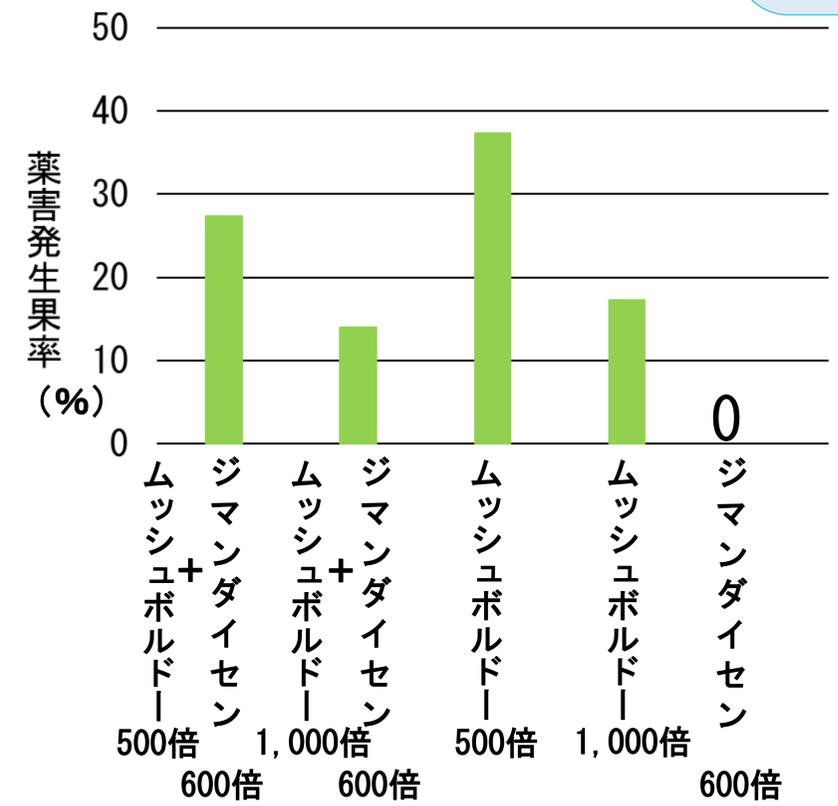
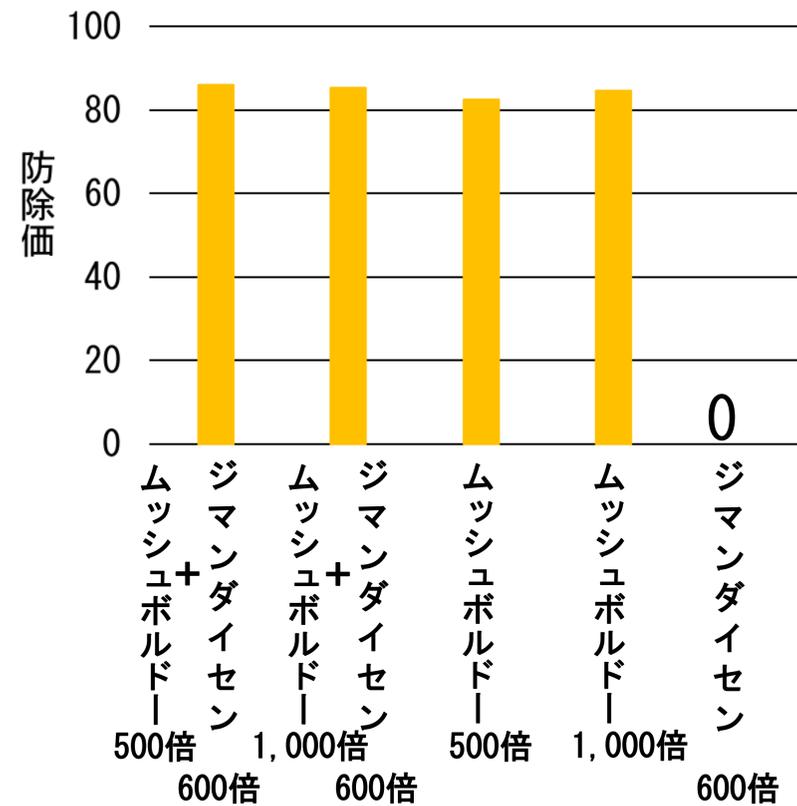
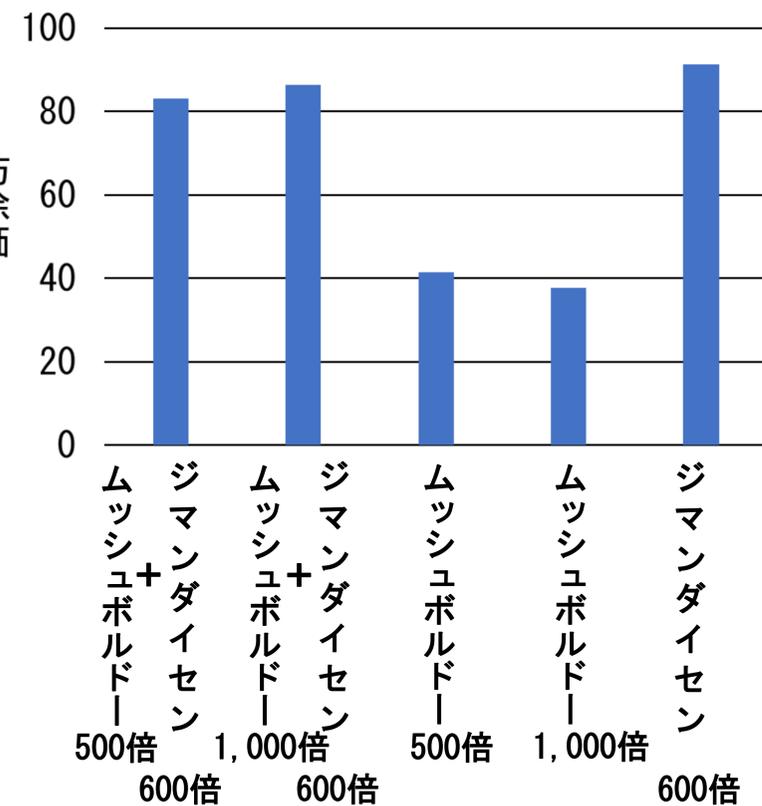


病斑の中心部がコルク化

## ○銅の薬害の発生程度 (写真：はれひめ)



「スターメラノーズ」角張り盛り上がった黒点症状、周辺部にコルク層なし



銅剤とマンゼブ剤を混用散布した場合でも、黒点病、かいよう病に対する防除価、銅の薬害(スターメラノーズ)の発生状況には単剤散布と大きな差は認められなかった。防除効果や薬害の発生は気象条件が大きく影響するため、さらに検討が必要である。